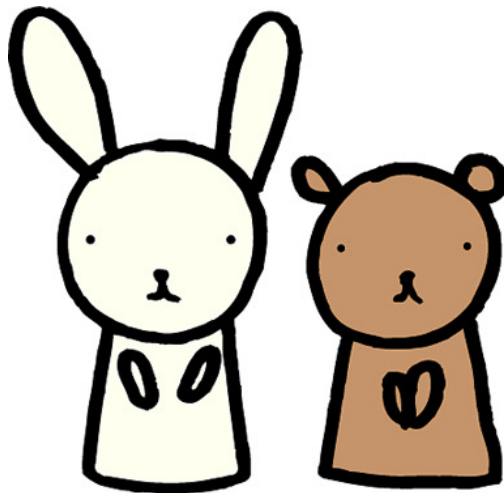


新刊児童図書リスト

(平成 27 年度版)

平成 28 年 4 月
広島県立図書館

第 27 号



📖リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 27 年 1 月から同年 12 月までの間に出版されたものです。また、児童図書は平成 26 年 4 月から平成 27 年 7 月までの間に、青少年向け図書は、平成 26 年 3 月から平成 27 年 10 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、広島県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ 食べる

『ごはん』平野恵理子／作，福音館書店【C 5】

炊き込み御飯やおにぎり，お寿司など，おいしそうな御飯ものをずらりと並べて，その名前を示しています。色鮮やかな絵からは，御飯の香りまで伝わってくるようです。

『うめぼしさん』かんざわとしこ／文，ましませつこ／絵，こぐま社【E ㌸】

梅の花が咲き，青い実がなって，カメに漬けられて…。梅干しができるまでの工程を，順を追って描いた絵本です。1985年に発行された紙芝居『うめぼしさん』を基に再構成しています。

◆ 動物

『およげないさかな』せなけいこ／作・絵，ポプラ社【E ㍷】

海の底でたくさんの魚が生まれましたが，一匹の赤い魚は泳げませんでした。仕方なく腹ばいになって進むと，砂浜で，人間の男の子に会いました。男の子も，泳ぐことができないと言います。赤い魚と男の子は，一緒にスイミングスクールに行くことにしました。

『シルヴィーどうぶつえんへいく』ジョン・バーニンガム／さく，たにかわしゅんたろう／やく，BL出版【E ㍻】

シルヴィーは，部屋に今までなかったドアがあるのに気が付きました。ドアを開けると，そこは動物園になっていました。シルヴィーはお母さんに見付からないように，ふわふわの「くまのこ」を部屋に連れて行き，一緒にベッドで眠りました。

『あっ！みーつけたっ！！』くすのきしげのり／作，大島妙子／絵，光村教育図書【E ㌿】

男の子は，学校の帰り道におもしろい形の石を拾いました。そして，色を塗りライオンやキリン，ペンギンなどを作りました。実は，男の子は入院している妹のために，石の動物園を作っていたのです。

『たんじょうびおめでとう！』マーガレット・ワイズ・ブラウン／さく，レナード・ワイズガード／え，こみやゆう／やく，好学社【E ㍽】

ある春の日，深い森の中で動物たちが生まれました。動物たちはすくすくと育って，次の春一歳になりました。それぞれ，家族から誕生日プレゼントをもらいました。いもむしにはりんご，みつばちには甘い花の蜜が贈られます。ぶたには何がプレゼントされたのでしょうか。

『ライフタイム：いきものたちの一生と数字』ローラ・M. シェーファー／ぶん，クリストファー・サイラス・ニール／え，福岡伸一／やく，ポプラ社【E 3】

キリンは一生に平均何個の網目模様ができるのでしょうか。カンガルーは一生の間に何匹の赤ちゃんを産むのでしょうか。

この絵本には、生き物の特徴を表す「平均的な数字」が紹介されています。生き物について知ると共に、命の不思議について考えさせられます。

『ロバのジョジョとおひめさま』マイケル・モーパーゴ／文，ヘレン・スティーヴンズ／絵，おびかゆうこ／訳，徳間書店【E 4】

ロバのジョジョは、自分が嫌いでした。それは、まぬけでぶかっこうでみんなからバカにされるからです。ある日、ジョジョはみんなから「お姫様」と呼ばれる少女に出会います。

水の都、ベネチアを舞台にした絵本です。

◆ 医者

『いしゃがよい』さくらせかい／さく，福音館書店【E 5】

山の中で泣いていたパンダを見つけたエンさんは、「ファンファン」と名前を付けて育てることにしました。ファンファンは病気がちでした。エンさんは、ファンファンを自転車の後ろに乗せ、山の向こうにある医者に連れて行きます。

『アントンせんせいおでかけです』西村敏雄／作，講談社【E 6】

アントン先生は動物のお医者さんです。ある日、ヤギから「きょうのよるいえにきてください」と書かれた手紙が届きました。「体の具合でも悪いのかな？」と心配になったアントン先生は、自転車でヤギの家に向かいます。

◆ 乗り物

『のっぺいこう』木内達朗／さく，福音館書店【E 7】

三つの乗り物に乗って、男の子がお父さんとお出かけです。一つ目の乗り物はバス、二つ目の乗り物は電車でした。まるで男の子と一緒にのお出かけしているかのような気分が味わえる絵本です。

『すすめ！ゆきのきゅうじょたい』竹下文子／文，鈴木まもる／絵，金の星社【E 8】

6人の子供たちが「きゅうじょたい」として活躍する絵本です。山で大雪が降って困っていると緊急連絡が入りました。子供たちは、ダンプカーやショベルカーなどの車に乗って早く自動しました。

◆ 科学

『おきたらごはん』岩合光昭／[作]，福音館書店【C 4】

「らいおんはねるから つよくなるよ」「おきたらごはん にくをたべます」。「さるはねるから かしこくなるよ」「おきたらごはん きのこをたべます」。野生動物の寝る姿と食べる姿の写真が繰り返し載っていて、自然の法則が子供にも共感できるようになっています。

『あわふきむし』藤丸篤夫／しゃしん，有沢重雄／ぶん，そうえん社【C 4】

あわふきむしの幼虫は、身を守るために泡の中で成長していきます。巣ができる様子や脱皮する姿等、様々な角度から撮った拡大写真で体長8ミリのあわふきむしを紹介しています。『てのひらかいじゅう』など「しぜんといっしょ」シリーズの第6巻です。

『ハートのはっぱかたばみ』多田多恵子／ぶん，広野多珂子／え，福音館書店【C 4】

かたばみとは、ハート形の葉が3枚集まった草です。夜の間は葉を閉じ、虫に食べられないように酸を作る等かたばみの特徴を紹介しています。人知れず生えているかたばみを探してみたくなる絵本です。

◆ びっくり

『かとりせんこう』田島征三／作，福音館書店【E ㍲】

蚊取り線香の煙が「もんもん」と流れていくと、蚊が「ぼとん」と落ちました。この蚊取り線香が効くのは、蚊だけではなく。新聞紙の字や、おじさんのひげなど、普通ではありえないものがどんどん落ちていきます。

『うさぎちゃん』せなけいこ／作・絵，金の星社【E ㍲】

小さなうさぎを飼うことになった女の子。「いっぱい食べておおきくおなり」と餌をやります。それに応えてうさぎはどんどん大きくなりました。かごに入れなくなったうさぎは、やがて家よりも大きくなります。

『びっくりおおかみ』佐々木マキ／作・絵，フレーベル館【E ㍲】

ある日、ぶたが地面を掘っていると、土の中から箱が出てきました。ところが、おおかみはその箱を横取りしてしまいます。おおかみが早速箱を開けてみると、中から白い煙が出てきて…。

◆ 赤ちゃん向け絵本

『あか き あお みどり』ディック・ブルーナ／ぶん・え，まつおかきょうこ／やく，福音館書店【E 7】

色の塗られていない絵に1色ずつ色が加わっていきます。人形やヨット，果物に色が塗られて，最後のページには4色の色鉛筆が載っています。自然と色に関心を持たせるようなつくりになっています。

『とんだとんだ』いまもりみつひこ／きりえ・ぶん，福音館書店【C 4】

切り絵を使った幼児絵本です。色画用紙をはさみで切り取り重ね合わせて，蝶や草花を細部まで表現しています。「ほわんほわん」「ちらりちらり」「ぱたりぱたり」など蝶がはばたく音にも特徴があります。

『いいこねんね』内田麟太郎／ぶん，長谷川義史／え，童心社【E 9】

動物のお母さんやお父さんが「いいこ ねんね」と歌うと，子供たちは気持ちよさそうに寝息を立てて眠ります。人間のお母さんが布団の中で男の子に「いいこ ねんね」と歌い，寝顔を見守る様子が描かれています。

◆ 昔

『くらす』森崎和江／文，太田大八／絵，復刊ドットコム【E 6】

ひろしの家族を中心に，海辺の町の暮らしを描いた作品です。家の手伝い等，生活の一部を切り取った温もりのある光景が，生き生きと描かれています。1983年の「ブリタニカ絵本館ピコモス」を元に，新しく「五感のえほんシリーズ」として出版された本です。

『くつやのドラテフカ：ポーランドの昔話』ヤニーナ・ポラジンスカ／文，足達和子／訳，ワンダ・オルリンスカ／絵，福音館書店【E 6】

ドラテフカ（靴屋）が魔法使いの出す難題を解いて，お姫様と結婚する昔話です。親切なドラテフカが助けた小さな生き物たちがやってきて，謎解きを手伝う場面が見どころです。ポーランドの民話研究に情熱を注いだヤニーナ・ポラジンスカの作品です。

『三つのまほうのおくりもの』ジェイムズ・リオードン／文，エロール・ル・カイン／絵，中川千尋／訳，ほるぷ出版【E 9】

ロシアの村に住む，金持ちのイワン兄さんと貧乏な弟イワンのお話です。弟イワンは風や太陽から三つの魔法の贈り物をもらいます。しかし，それを見たイワン兄さんは弟を騙して横取りしてしまいます。絵の中には，ロシアの民族衣装や東洋的な顔立ちをした大男等異文化が入り混じり，独特の印象を与えます。ロシア民話「ふたりのイワン」の再話です。

『しんぞうとひげ：アフリカの民話』 しまおかゆみこ／再話，モハメッド・チャリンダ／絵，ポプラ社【Eシ】

なぜ人間の男にはひげが生え、心臓が左胸にあるのかという由来を語ったアフリカの民話です。絵はティンガティンガ・アートと呼ばれる色鮮やかなアフリカの現代アートを駆使しています。6色のエナメルペンキで、自然や動物、人々の生活が描き込まれています。

◆ **幽霊，お化け**

『鬼のおっぺけぼー：おんみょうじ』 夢枕獏／作，大島妙子／絵，講談社【Eユ】

陰陽師安倍晴明の子供の頃を描いた絵本です。師匠を乗せた牛車が暗い夜道を進み、その前を安倍晴明が歩いていました。そこに「おっぺけぼー のっぺけぼー」と化け物たちが近づいてきました。「おっぺけぼー」などの擬音と、とぼけた印象の化け物の描き方が、不思議な雰囲気を醸し出しています。

『ロンと海からきた漁師』 チェンジャンホン／作・絵，平岡敦／訳，徳間書店【Eチ】

ロンという少年が、海辺の町はずれで一人、魚をとって暮らしていました。ロンは、ある嵐の夜、亡くなったお父さんの言いつけを破って、舟を出しました。すると、大きなガイコツを釣り上げてしまいます。

◆ **「読む」絵本**

『おねえちゃんにあった夜』 シェフ・アールツ／文，マリット・テルクヴィスト／絵，長山さき／訳，徳間書店【Eア】

2014年にオランダの銀の石筆賞を受賞した作品です。死に関心を持つ少年の揺れ動く心情を描いた意欲作です。ベルギーの作家シェフ・アールツが、子供の頃に経験したことを基に書いています。

『リンドバーグ：空飛ぶネズミの大冒険』 トーベン・クールマン／作，金原瑞人／訳，ブロンズ新社【Eク】

一匹の賢いネズミが、空を飛んでアメリカに行く決心をしました。設計図を書いて部品を集め飛行機を作りましたが、なかなかうまく飛ぶことができません。主人公のネズミに、空を飛ぶことを目指した人々の苦悩を投影した写実的で美しい絵本です。

『飛行士と星の王子さま：サン＝テグジュペリの生涯』 ピーター・シス／文・絵，原田勝／訳，徳間書店【Eシ】

『星の王子さま』の作者、アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの生涯を『生命の樹』等の作者であるピーター・シスが描いた絵本です。サン＝テグジュペリの生涯をたどるとともに、彼にまつわるエピソードも多く掲載しています。1ページの中に膨大な情報が載っており、しかも一つ一つの絵が、緻密に計算され配置してあります。

児童図書

◆ 動物

『動物のおじいさん，動物のおばあさん』高岡昌江／文，すがわらけいこ／絵，学研教育出版
【480 ㄗ】

動物園の飼育係は，高齢の動物をいたわり長生きできるようにお世話をしています。

動物の人生をたどった「履歴書」や飼育係のインタビュー等が載っていて，動物園の裏側も分かります。広島市安佐動物園のクロサイのハナのエピソードも紹介されています。

『命を救われた捨て犬夢之丞：災害救助泥まみれの一步』今西乃子／著，浜田一男／写真，金の星社【H369 イノ115ㄗ】

神石高原町の災害救助犬訓練センターで育てられた「夢之丞」は，元々動物愛護センターで殺処分されるはずの犬でした。夢之丞は小柄な犬でしたが，訓練を重ね平成26年8月の広島市安佐南区の土砂災害現場で活躍しました。

『さくら猫と生きる：殺処分をなくすためにできること』今西乃子／著，浜田一男／写真，ポプラ社【645 イ】

千葉県秋元さんは，繁殖する野良猫を減らすためのボランティア活動をしています。野良猫を保護して動物病院で不妊・去勢手術を受けさせ，目印として耳を「さくら」の花びらのようにV字カットします。動物と社会の在り方について考えさせられる本です。

◆ 社会

『草と木で包む』U. G. サトー／文と絵，後藤九／写真，酒井道一／写真，福音館書店【385 ㄗ】

昔，日本人は草や木を使って，食べるものを包んできました。草や木で包むと，見た目にも美しく，保存にもよいのです。岡秀行さんの『包』という写真集を参考にして作られた絵本です。

『光と音のない世界で：盲ろうの東大教授・福島智物語』池田まき子／著，岩崎書店【369 イ】

福島さんは目が見えず耳も聞こえない「盲ろう」の方です。福島さんのお母さんは，息子とコミュニケーションを取るために，「指点字」という方法を思いつきました。それは，相手の指を触わって意思を伝える画期的なやり方でした。

『ぼくと象のものがたり』リン・ケリー／作，若林千鶴／訳，鈴木出版【933 ㄗ】

少年ハスティンは，病気になった妹の治療代を払うため一年間ジャングルで働くことになりました。ハスティンは小象の世話係として一日中働かされ，失敗する度にひどく怒鳴られました。

児童労働と動物虐待について書いた作品です。

『アルカーディのゴール』 ユージン・イエルチン／作・絵，若林千鶴／訳，岩波書店【933 イ】

旧ソ連のスターリン支配下の時代。政権に対して批判的な人やその疑いのある人は「人民の敵」として捕らえられ国外追放されたり処刑されたりしました。

「人民の敵」の子供であるアルカーディは、孤児院でサッカーをしている時だけ他のことを忘れることができました。

◆ わくわく

『ぼろイスのボス』 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作，野口絵美／訳，佐竹美保／絵，徳間書店【933 シ】

マーシャとサイモン兄弟の家には古くなった縞模様のイスがありました。イスは、ある日、丸々と太ったへんてこりんな人形になってしまいます。わがままで自分勝手な人形は、家中のものを壊したり火事を起こしたりして大変です。兄弟は、人形を元のイスに戻そうとしますが…。

『落っこちた！』 ザラー・ナオウラ／作，森川弘子／訳，佐竹美保／絵，岩波書店【943 ナ】

ヘンリック少年のおばあちゃんは意地悪でいたずら好きな人でした。おばあちゃんは、自分の父親が、昔、金ののべぼうを家の周りのどこかに埋めたはずだと教えてくれます。

その夜から、ヘンリックの家の周囲は「穴」を掘る人で一杯になりました。

『メリサンド姫：むてきの算数！』 E. ネズビット／作，灰島かり／訳，高桑幸次／絵，小峰書店【933 ネ】

イギリスの作家ネズビットの今から100年近く前の作品です。メリサンド姫は、子供の頃、のろいのため髪の毛が一本も生えませんでした。成長して魔法が使えるようになった時願ったのは、髪の毛が毎日三センチ伸び、切る度に倍の速さで伸びるようにということでした。しかし、髪は、想定外に伸び続け…。

算数の知識だけでなく勇気と決断力も試されるお話です。

『酒天童子』 竹下文子／著，平沢下戸／絵，偕成社【913 ヲ】

児童文学作家の竹下文子さんが、『御伽草子』、『古今著聞集』等の古典を巧みに組み合わせて、一つの新たなストーリーとして子供向けに書き上げた読み物です。強くて賢い武将が、忠実で勇敢な家来たちと力を合わせ、悪と戦う五つの作品から成っています。

◆ 元気

『げんきなぬいぐるみ人形ガルドラ』モドウィナ・セジウィック／さく，多賀京子／やく，大社玲子／え，福音館書店【933 ㉗】

手作り人形のガルドラは，持ち主の女の子メリーベルが，うっかりいろんな所に置き忘れてしまうので大変な目に遭います。でも，ガルドラは，家の外に出られてよかったとか，青空を見ることができてよかったなど思っていて全く焦ったり悲しんだりしません。いつも元気なガルドラの明るく前向きな様子が描かれています。

『浮き橋のそばのタンムー』彭学軍／著，渡辺仙州／編訳，中山成子／絵，ポプラ社【923 ハ】

中国の児童文学作家彭学軍（パンシュエジュン）の作品です。ある日，少年タンムーが散歩をしていると，「浮き橋のそばのタンムー」を夏休みまでに殺せという誰かの怒鳴り声が聞こえてきました。夏休みまであと3週間しかありません。タンムーは，生きた心地がしませんでした。

『先生，しゅくだいわすれました』山本悦子／作，佐藤真紀子／絵，童心社【913 ヲ】

小学4年生のゆうすけは，宿題を忘れて思わず嘘をつき，えりこ先生から注意されます。嘘をつくなら聞いた相手が楽しくなるような嘘でなくてはと言われたゆうすけは，はりきってとっておきの嘘を考えることにしました。等身大の子供の姿が描かれています。

『たびいえさん』北川チハル／作，青山邦彦／絵，くもん出版【913 キ】

森に建っていたひとりぼっちの家は，ある時夕日を見つめて「さびしいな」とつぶやきました。誰かと話がしたくなった家は，体を動かして川までたどりつきます。川へ飛び込んだ家は，今まで心の底にあった自分の願いを叶えるため旅をすることになりました。

青少年向け図書

◆ つなぐ・結ぶ

『白をつなぐ』まはら三桃／著，小学館【913 マ】

舞台は，毎年一月に広島で開催される「都道府県対抗男子駅伝」です。中学生から大学生，社会人までが参加する福岡県代表チームのお話です。一区から七区までそれぞれの走者の立場で物語は進んでいきます。この駅伝では赤いたすきを使いますが，決められた時間内につなげなかった場合，白いたすきで走ります。福岡県チームは赤いたすきをつなぐことができませんでした。

『いのちのパレード』八束澄子／著，講談社【913 ヲ】

中学二年生の万里は，親友のセナから妊娠したことを告白されます。万里は，余りの衝撃にどう接していいか分からなくなりました。万里やセナ，産婦人科で看護師として働いている万里の母親や，万里に思いを寄せる同級生など，それぞれの立場で「いのち」の物語が書かれています。

『リフカの旅』カレン・ヘス／作，伊藤比呂美／訳，西更／訳，理論社【933 へ】

1919年，ユダヤ人に対する迫害から逃れるため，家族とともにウクライナからアメリカを目指した12歳の少女リフカ。物語は，リフカがいどこに宛てた手紙の形式で進みます。作者の大叔母が実際に体験したことを基に書かれました。

『夏目漱石の手紙に学ぶ伝える工夫』中川越／著，マガジンハウス【910.26 ナ 114】

「あいさつの手紙」，「行動をうながす手紙」，「書きにくい手紙」等の項目ごとに，漱石の遺した手紙に著者が解説を付けています。ユーモアたっぷりの漱石の手紙は，飾らない気持ちを素直に自分らしく伝えることの大切さを教えてくれます。

◆ 青春

『「がんばらない」人生相談：南無そのまんま・そのまんま』ひろさちや／著，河出書房新社【159 じ】

仏教の研究者である著者が，様々な宗教や哲学の考え方に触れながら，「人生の目的」を考えるヒントを示しています。子供たちに「のんびり，ゆったり，たのしい人生を生きてほしい」という著者の思いが込められています。

『リンドグレーンと少女サラ：秘密の往復書簡』アストリッド・リンドグレーン／[著]，サラ・シュワルト／[著]，石井登志子／訳，岩波書店【949.8 リ 115】

児童文学作家のリンドグレーンが，多数あったファンからの文通希望の中で，ただ一人，文通を続けた少女との記録です。12歳の少女サラは家庭や学校生活に問題を抱えた女の子でした。率直に思いを綴るサラに，リンドグレーンも正面から応えています。

『おしゃれ教室』アン・ファイン／作，灰島かり／訳，評論社【933 7】

イギリスの女の子ボニーは，大変活発でおしゃれには全く興味がありません。ところが，着飾った女の子たちばかりが集まる「おしゃれ教室」で一日を過ごさなくてはならなくなります。しかもこの日は，1年に1度の「プリティ・プリンセス・コンテスト」で，この教室内で最も素敵な女の子を決める日だったのです。

『青春ロボット』佐久本庸介／[著]，ディスカヴァー・トゥエンティワン【913 ㇿ】

15歳の少年，手崎零は，自分がロボットであることを隠して，学校生活を送っていました。クラスメイトや部活の仲間との関わりから，人間の考え方や行動を学び，迷い戸惑いつつも成長していきます。最後まで読むと，このタイトルに込められた意味が分かります。